

## 富豪の象徴の壁

渡嘉敷集落に位置する大きな石垣は、琉球王朝（1429-1879）にさかのぼる「船主の大邸宅」、根元本家のものとして現存するものです。当時、数多くの船が沖縄から中国、九州南部の薩摩藩へ、貢物、使者、商品を積んで渡航しました。これらの船の船長を務めるということは、財を成す方法でした。『唐儲け』という言葉があったほどです。

この大きな石垣と、家の戸口を隠し邪悪な魂を追い払う、入口の内側に建っているヒンプンは、互いに完璧に合うように、もともとは形のそろわない石灰岩を精巧に切り取って作られています。比較すると、一般住宅は石壁のように、もう少し無造作に建てられています。（第二次世界大戦に破壊された東側の角の一部分は、1997年に修復されました。）2.73mの高さの根本家の石垣は、慶良間島にあるほかの同じような船主の家よりも本当は高くできています。